

科目名	年度	レポート番号	クラス	学籍番号	名前
API 実習	2024	3	A	20123020	五味帆翔

レポートは 3 ページ以上、5 ページ以内とします。5 ページを超えても構いません。ページ数や文字数よりも、わかりやすく書けているかどうか、点数アップの分かれ目です。改行で稼ぐ行為は減点対象です。

生成 AI を使いましたか？（どちらかに○をつけてください） はい○ ・ いいえ

上記で「いいえ」と回答したにも関わらず、生成 AI を使ったと疑わしい場合は、レポートについて各クラスの教員から質問します。

調査レポート名：[テクノロジー・リーダーが把握すべき見落とされがちな 6 つの課題](#)

調査レポートの要約

本レポートは、IBM Institute for Business Value が 2024 年第 1 四半期に実施した調査を基に、テクノロジー・リーダーが直面する「6 つの盲点」を明らかにしている。この調査には、CTO（最高技術責任者）、CIO（最高情報責任者）、CDO（最高データ責任者）など、2,500 人以上の企業リーダーが参加しており、AI の時代における企業の成長を阻害する要因を分析している。

現代において、IT 部門は従来の独立した機能としてではなく、ビジネス全体を強化するための重要な要素として位置づけられている。生成 AI の急速な進化により、テクノロジーの役割は大きく変化し、企業の競争優位性にも大きな影響を与えている。この変革に伴い、ビジネスリーダーはますますテクノロジーに精通し、テクノロジー・リーダーと協力することが求められている。

このような中、現代の企業における 6 つの課題が明らかになった。「テクノロジーは企業の中核であるべき」「現在の協業は表面的」「生成 AI が組織に混乱をもたらす可能性」「『責任ある AI』の実現が困難」「データが負債となる可能性」「時代遅れの人材戦略」である。これらの課題を克服するためには、企業がテクノロジー戦略を再定義し、部門間の連携を強化することが必要である。

特に重要なのは、経営層とテクノロジー部門の緊密な連携、財務部門との協力強化、そして投資判断におけるテクノロジー視点の重視である。テクノロジー・リーダーは、ビジネスの成長を支えるために、迅速かつ果敢に決断を下すことが求められる。また、生成 AI の導入においては、リスク管理を徹底し、組織内での混乱を最小限に抑えることが重要である。

「責任ある AI」の実現に向けては、透明性、公平性、説明可能性を確保するために明確なガイドラインの策定が不可欠である。これにより、企業は AI の導入によるリスクを最小限に抑えつつ、そのメリットを最大化できる。また、データ管理の面では、単なるデータの蓄積に終わらず、ビジネス価値を生み出すフレームワークを確立することが求められる。企業は、データを戦略的に活用し、新たなビジネスチャンスを生み出すために、データガバナンスを強化し、適切なデータ管理体制を整えるべきである。

さらに、人材戦略の見直しも不可欠である。AI や最新技術に対応できるスキルを持つ人材の育成が急務であり、これにより企業は競争力を維持し、成長を続けることができる。人材の教育と育成を通じて、企業は技術革新を支える基盤を作り上げることができる。

結論として、AI 革命は既に進行中であり、テクノロジー・リーダーは AI の課題を克服し、その機会を最大限に活用するために、果敢な決断を下すことが求められる。AI はビジネスの構造を根本から変革する可能性を秘めているが、それを実現するためには、見落とされがちな課題に対処し、組織を適切に導く必要がある。

テクノロジー・リーダーは、ビジネスとテクノロジーを統合し、パフォーマンスを最大限に引き出す役割を担うべきである。そのためには、スピードとイノベーションを推進しつつ、ガバナンスや財務責任とのバランスを取ることが重要である。今、企業は慎重に進めるのではなく、戦略を実行し、未来に向けて積極的に行動すべき時である。

生成 AI とビジネス AI の登場は、テクノロジー・リーダーのキャリアにも大きな影響を与えている。AI を責任を持って活用し、信頼できるソリューションを生み出すことが、企業の競争優位性を高める鍵となる。テクノロジー・リーダーは、変革の先駆者として、企業の未来を形作る重要な役割を果たすべきである。

あなたの考え

本書で明らかになった問題の 1 つに「『責任ある AI』を実現できない可能性がある」ということが挙げられた。これを読んで、私は非常に驚いた。企業が AI 導入時に信頼やプライバシーに関わるリスクを過小評価するのと同じように、私自身も生成 AI を扱う際、その便利さばかりに目を向け、プライバシーやリスクに対する意識が欠けていたことに気づいた。

また、「責任ある AI」の実現が単なる選択肢ではなく、企業文化として必須の事項であるという点も非常に重要だと感じた。AI を活用する際には、透明性や公平性を保ちつつ、リスクを慎重に管理する必要がある。そのような取り組みが顧客や利害関係者との信頼構築に繋がることを、私自身も強く意識しなければならないと感じた。テクノロジーが進化する中で、リスク管理と倫理的な使用をしっかりと考えることが、今後ますます重要になると実感した。

専門用語解説

・生成 AI (Generative AI)

大量のデータを学習し、新しい文章や画像を生成する AI 技術。

・テクノロジー・リーダー (Technology Leader)

技術戦略の策定や実行を担うリーダー。CTO、CIO、CDO が該当。

・CTO (Chief Technology Officer)

最高技術責任者。技術戦略や技術開発の統括を行う役職。

・CIO (Chief Information Officer)

最高情報責任者。IT 戦略や情報システムの管理を行う役職。

・CDO (Chief Data Officer)

最高データ責任者。データ管理や活用戦略を統括する役職。

・ゼロトラスト (Zero Trust)

すべてのアクセスを検証するセキュリティモデル。外部も内部も信頼しない。

・セキュア・バイ・デザイン (Secure by Design)

設計段階からセキュリティを考慮したシステム設計。

・DevSecOps

開発 (Development)、運用 (Operations)、セキュリティ (Security) を統合したアプローチ。

- ・サイバーセキュリティ (Cybersecurity)

情報システムやネットワークをサイバー攻撃から守る技術や対策。

- ・イノベーション (Innovation)

新しいアイデアや技術を導入し、製品やプロセスを革新すること。

- ・ワークフロー (Workflow)

一連の業務手順やプロセスの流れ。

- ・機械学習 (Machine Learning)

データを基にパターンを学習し、予測や判断を行う AI 技術。

- ・データ文化 (Data Culture)

データ活用を組織の文化として定着させること。

- ・サイバー脅威 (Cyber Threat)

情報システムに対する不正アクセスや攻撃のリスク。

- ・インフラストラクチャー (Infrastructure)

システム運用の基盤となるハードウェアやソフトウェア、ネットワーク。